

# 第1章 「めざす子どもの姿」

# 1 四日市市が進める教育の基本的な考え方

## ◆ 基本理念

### 「生きる力」「共に生きる力」をはぐくむ

平成23年度からスタートした「第2次四日市市学校教育ビジョン」の取組も2年が経過しました。本ビジョンでは、「生きる力」「共に生きる力」をはぐくむという基本理念のもと、将来の四日市市を担う人材の育成に努めています。

#### 生きる力

将来、子どもたちにとって「生きる力」として必要な「問題解決能力」とともに、「豊かな人間性」やたくましく生きるための「健康・体力」は、「生きる力」を形作る大きな柱です。このビジョンにおいても、これらの資質や能力などを育成する取組を進めていきます。

#### 共に生きる力

「豊かな人間関係をはぐくむコミュニケーション力」を大切にしながら、「共に生きる力」をはぐくむ取組を進めます。

## ◆ めざす子どもの姿を実現していくための3つの視点

子どもの姿から導き出された課題について、3つの視点から整理し、常にそれらを意識した取組を進めています。

#### 段差のない教育

子どもの成長や発達に応じた指導方法の工夫や体制の整備を図り、より滑らかに接続できるよう努め、幼保小中の学びや育ちの連続性を大切にする教育を進めます。

#### 途切れのない支援

特別な支援を必要とする子ども、いじめ・不登校・問題行動を起こす子ども、外国人幼児児童生徒等に対し、学校区・園が関係機関や家庭・地域との連携を広げながら、ネットワークを構築し、乳幼児期から就労に至るまで途切れることなく、必要な相談や支援をきめ細かく行うことができる体制づくりに努めます。

#### 家庭・地域との協働

学校・家庭・地域のそれぞれが担う役割と責任を果たしながら「地域とともに作る学校」の実現をめざし、学校と家庭・地域との協働をより進めていきます。

## ◆ めざす子どもの姿

**輝く よっかいちの子ども**

「生きる力」としての「問題解決能力」、「豊かな人間性」、「健康・体力」、そして、本市が大切にしている「共に生きる力」としての「豊かな人間関係をはぐくむためのコミュニケーション力」を育成することにより、それぞれ実現したい子どもの姿を次のように示します。

**1 将来、社会人として生きるために必要な問題解決能力を身につけた子ども**

各教科の基礎的・基本的な内容を身につけ、自分の考えをもち、自分で判断し、表現できる力や学習に取り組む意欲を高め、さまざまな問題に主体的に対応し、解決していこうとする資質や能力が向上しています。

**2 自らを律しつつ、他者とともに協調し、人を思いやる心や感動する心など、豊かな人間性を備えた子ども**

自然体験・社会体験・生活体験や文化的な活動に積極的に参加し、豊かな人権感覚や規範意識を身につけ、将来において社会的に自己実現ができる資質や能力が向上しています。

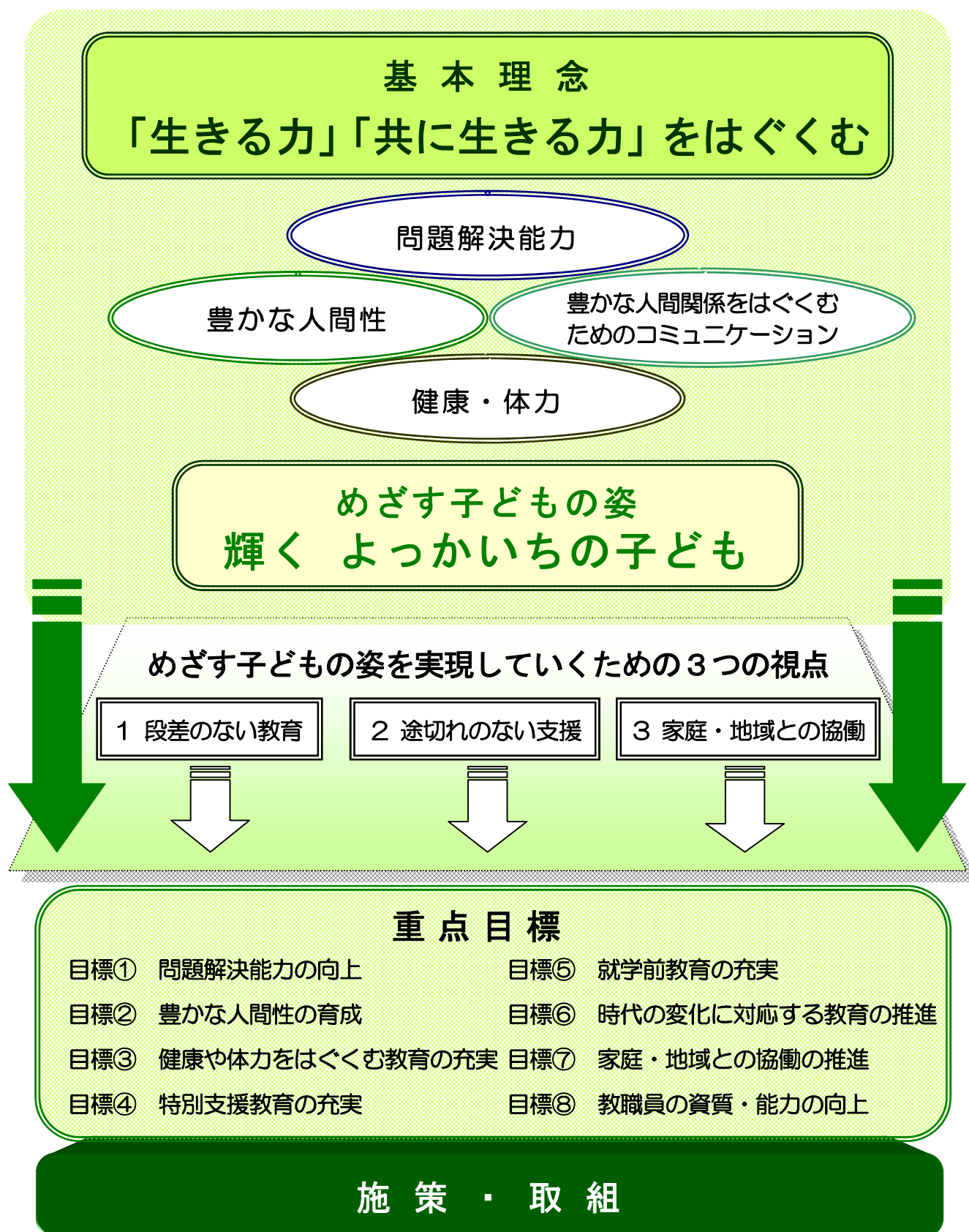
**3 自他の健康・安全について実践していく力やたくましく生きるための体力を備えた子ども**

仲間と関わりながら進んで運動に取り組み、生涯にわたって運動やスポーツに親しむ資質や能力とともに、自他の健康や安全について考えるなど、健康・安全を適切に管理し、改善していくための実践力やたくましく生きるための体力が向上しています。

**4 他者の意見を聴き、自分の思いを伝える力を身につけ、互いに尊重し、共に向上する人間関係を築くための資質を備えた子ども**

聴く力・話す力、自分と他者との関わりの中で行動できる力（社会性）が向上しています。また、他者を認め、互いに尊重し、共に向上しようとする意識をもって行動し、学習集団や生活集団、自主的・主体的活動集団の質が向上しています。

これらの力を兼ね備え、将来においても、自己の個性を生かし、他者とともに協調し、主体的に社会にかかわろうとする社会人として成長していくことができる資質や能力を身につけた、本市のめざす子どもの姿を「**輝く よっかいちの子ども**」として示します。



## 2 重点目標の達成に向けた取組

### ◆ 重点目標の達成状況

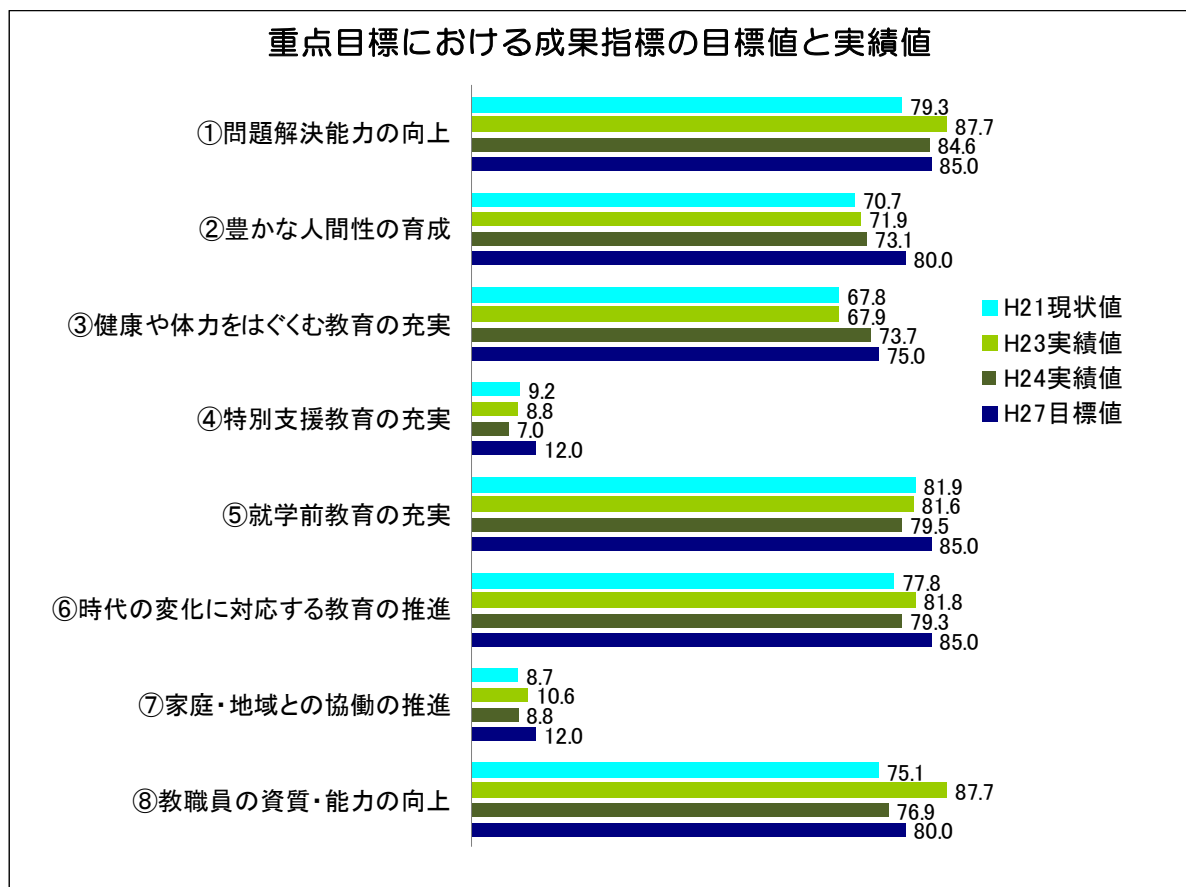
重点目標の達成状況を把握するため、それぞれの重点目標に成果指標を設定し、その進捗状況を把握しています。

#### 平成24年度の重点目標における成果指標の目標値と実績値

No.	重点目標	成果指標	実績値 (平成24年度)	目標値 (平成27年度)
①	<b>問題解決能力の向上</b> 基礎学力の定着を図り、学ぶ意欲をはぐくむことにより、問題を解決する力を育成するとともに、社会の中で共に生きる実践的な態度や資質を育成します。	児童生徒アンケート 「授業で学習したことは、将来の役に立つと思う」(4段階評価)において「そう思う」「まあそう思う」と回答する割合 *全国学力・学習状況調査 小6国・算と中3国・数の平均値	84.6%	85%
②	<b>豊かな人間性の育成</b> さまざまな学習活動や生活体験を通して、基本的な生活習慣や規範意識、自尊心や感動する心、他者と協調し、他者を思いやる心など、豊かな人間性をはぐくみます。	児童生徒アンケート 「自分には、よいところがあると思うか」(4段階評価)において「よく思う」「時々思う」と回答する割合 *全国学力・学習状況調査 小6と中3の平均値	73.1%	80%
③	<b>健康や体力をはぐくむ教育の充実</b> 自他の健康・安全について実践していく力や体力の向上を図り、生涯にわたって運動・スポーツに親しみ、明るく豊かな生活を営む態度や資質を育成します。	児童生徒(抽出)の体力テスト 総合評価(5段階)で3段階以上の児童生徒の割合	73.7%	75%
④	<b>特別支援教育の充実</b> 一人一人の教育的ニーズを把握し、生活や学習上の困難を改善する適切な指導や必要な支援を行い、自立し社会参加するための基礎となる力を育成します。	市政アンケート(※) 「途切れない支援の充実」(5段階評価)において「非常に満足している」「満足している」と回答する割合	7.0%	12%
⑤	<b>就学前教育の充実</b> 生涯にわたる人間形成の基礎を培う重要な時期であることから、「生きる力」「共に生きる力」の基礎となる力を育成します。	保護者アンケート 「お子さんは登園を喜んでいる」「園の生活や遊びが楽しいと言っている」(4段階評価)において「そう思う」と評価する割合	79.5%	85%
⑥	<b>時代の変化に対応する教育の推進</b> 時代の変化により生ずる課題に対し、自ら新しい知識や情報を得て、社会の変化の中を主体的に生きていく力を育成します。	児童生徒アンケート 「将来の夢や目標を持っているか」(4段階評価)において「そう思う」「まあそう思う」と回答する割合 *全国学力・学習状況調査 小6と中3の平均値	79.3%	85%
⑦	<b>家庭・地域との協働の推進</b> 保護者・地域住民が学校づくりに主体的に参画する「地域とともにつくる学校」の実現をめざすとともに、家庭・地域の教育力の向上の支援に努めます。	市政アンケート(※) 「家庭・地域の教育との連携」(5段階評価)において「非常に満足している」「満足している」と回答する割合	8.8%	12%
⑧	<b>教職員の資質・能力の向上</b> 教育への情熱を持ち、豊かな人間性を備え、自己相互研鑽を積み、確かな教師力を持った教職員をめざします。	児童生徒アンケート 「授業は、分かりやすいか」(4段階評価)において「よく分かる」「分かる」と回答する割合 *全国学力・学習状況調査 小6国・算と中3国・数の平均値	76.9%	80%



下図は、第2次四日市市学校教育ビジョン策定時の現状値（平成21年度実績値）と本年度までの実績値の推移及び平成27年度の達成目標値を示しています。



**重点①「問題解決能力の向上」**では、「授業で学習したことは将来の役に立つ」との問いに対し「そう思う」「ややそう思う」と回答した子どもの割合が目標値に近づいています。学校では、学習したことを活用して課題を解決できるように工夫された授業を多く取り入れています。そのような授業の積み重ねにより、身につけた力が将来の役に立つと感じている子どもが増えていると考えられます。

**重点②豊かな人間性の育成**については、昨年度と比較して 1.2 ポイントの上昇が見られ、「自分にはよいところがある」との問いに対して肯定的な回答をする子どもの割合が少しずつ増加していることがわかります。基本的な生活習慣や規範意識を身につけることで、他者と協調し、安心した学校生活を送ることができます。そのような環境の中で、子どもたちの自己肯定感が高まっていくと言えます。

**重点③健康や体力を育む教育の充実**については、昨年度から 5.8 ポイントの上昇が見られました。小学校の体育科における授業改善の取組や、本年度からスタートさせた、授業の初めに行う「5分間運動」の取組などが、子どもたちの体力向上につながっていると考えられます。これらの取組のさらなる充実が求められます。

一方、重点④「特別支援教育の充実」と重点⑤「就学前教育の充実」については、平成23年度に続き、平成24年度実績値も平成21年度現状値を下回りました。

重点④「特別支援教育の充実」では、学校・園における相談支援ファイルの活用やU-8事業（p.79参照）など、途切れのない支援を目指す取組において、一定の成果があがっています。市政アンケートでは昨年と比べ1.8ポイントの下降となっているほか、「途切れのない支援」について「よくわからない」と回答する割合が高い傾向にあります。子どもを持つ世帯については、「非常に満足している」「満足している」と回答する割合が高くなっており、一定の成果を見ることができました。これらの結果をふまえ、本施策の事業内容や成果については、対象となる教員や保護者等を対象とした指標を設定するなど、評価方法の見直しを進めていきます。

重点⑤「就学前教育の充実」においても、保護者からの評価が下がる傾向にあります。幼児の自発性や好奇心を重視した遊びを通し、「学び」の充実を進めていくとともに、幼保小連携つながりシートの活用や、就学前から小学校につながる保育・教育活動を計画的に行うなど、保育園・小学校との連携を密にすることで小1プロブレムの解消に努める必要があり、その取組の推進を図っているところです。

重点⑥時代の変化に対応する教育の推進及び重点⑦家庭・地域との協働の推進については、現状値を維持しています。

重点⑥時代の変化に対応する教育の推進においては、子どもたちが自分の将来に夢や展望を持てるようなキャリア教育の充実が求められます。各中学校区で、就学前から小・中学校までの子どもの成長を見通したキャリア教育指導計画の作成を進めているところです。この計画に基づく一貫した指導の中で、社会の変化に対応し、より主体的に生きていく力を育成する必要があります。

重点⑦家庭・地域との協働の推進については、各学校・園における学校づくり協力者会議の取組が充実し、その発展型である四日市版コミュニティスクール指定校は11校となりました。市政アンケートの結果は、平成21年度からほぼ横ばいとなっていますが、「非常に満足している」「満足している」と回答する割合は、他の教育分野のアンケート項目と比較してかなり高い割合になっています。地域に開かれた学校づくりの取組が浸透し、家庭や地域にとって、学校がより身近な存在になりつつあることがわかります。

重点⑧「教職員の資質・能力の向上」については、昨年度と比較して10.8ポイントのマイナスとなっています。教師力向上サポートブックの活用による自己研修の取組や評価の活動は定着し、個々の資質向上の一助となっていますが、増加する若手教員の育成や授業実践を主軸に据えた校内研修のさらなる充実が求められます。個人の資質・能力の向上が、わかりやすい授業の実践につながり、さらには子どもたちの学力向上につながっていくような施策の展開が必要です。

### 3 データから見える子どもの姿

第2次四日市市学校教育ビジョンでは、目指す子どもの姿を「問題解決能力を身につけた子ども」「豊かな人間性を備えた子ども」「たくましく生きるための体力を備えた子ども」「互いに向上する人間関係を築くための資質を備えた子ども」としています。

平成24年度に全小中学校において実施した「全国学力・学習状況調査」等のデータからは、子どもたちの学力の状況とともに、学習を取り巻く環境が見えてきます。本調査結果のデータに基づき、四日市市の子どもの姿を分析しました。

#### 1 本市の学力の状況（全国学力・学習状況調査の分析から）

○平成24年度調査の各教科の結果分析から

本年度の各教科の調査結果からは、小・中学校とも、資料を読みとったり自分の考えを表現したりすることなど、言語に関する能力や知識を活用する力（思考力・判断力・表現力等）に弱みがあることがうかがえました。

小学校	国語A（知識）	知識・技能の定着について課題がある
	国語B（活用）	知識・技能を活用する力に課題が多くある
	算数A（知識）	知識・技能の定着について一部課題がある
	算数B（活用）	知識・技能を活用する力に課題がある
	理科	知識・技能の定着及びそれらを活用する力に課題がある
中学校	国語A（知識）	知識・技能の定着について一部課題がある
	国語B（活用）	知識・技能を活用する力に一部課題がある
	数学A（知識）	知識・技能の定着はある程度満足できる
	数学B（活用）	知識・技能を活用する力に一部課題がある
	理科	知識・技能の定着及びそれらを活用する力はある程度満足できる



○本市における全国学力・学習状況調査 正答率の推移

本市の各教科の平均正答率は、小学校においては、国語のA及びB問題、算数のA及びB問題、理科で全国平均を下回りました。一方、中学校においては、全教科で全国平均を上回りました。

小学校		国語		算数		理科	
		A(知識)	B(活用)	A(知識)	B(活用)		
平成19年度	本市	81.7	62	81.6	62.1		
	三重県	80.6	60	81.1	61.4		
	全国(公立)	81.7	62	82.1	63.6		
平成20年度	本市	64.1	47.8	71	50.1		
	三重県	62.9	47.1	70.9	49.7		
	全国(公立)	65.4	50.5	72.2	51.6		
平成21年度	本市	68.4	46.8	76	53.1		
	三重県	67.8	46.9	76	52.5		
	全国(公立)	69.9	50.5	78.7	54.8		
平成22年度 抽出校：40校 中、12校参加	本市	81.9	74.3	71.8	47		
	三重県	81.7	75.2	72.4	47.3		
	全国(公立)	83.3	77.8	74.2	49.3		
平成24年度	本市	79.1	51.4	72.6	56.1		58.1
	三重県	79.6	52.7	72.2	56.8		58
	全国(公立)	81.6	55.6	73.3	58.9		60.9

中学校		国語		数学		理科	
		A(知識)	B(活用)	A(知識)	B(活用)		
平成19年度	本市	82.2	73	76.1	64.1		
	三重県	81.6	71	73.1	60.6		
	全国(公立)	81.6	72	71.9	60.6		
平成20年度	本市	73.3	60	65	50.7		
	三重県	72.6	59.4	63.7	49.3		
	全国(公立)	73.6	60.8	63.1	49.2		
平成21年度	本市	76.4	74.4	64.3	58		
	三重県	75.9	73.3	62.7	56.5		
	全国(公立)	77	74.5	62.7	56.9		
平成22年度 抽出校：22校 中、10校参加	本市	76.1	66	68.5	45.8		
	三重県	74.1	64.1	65.4	42.8		
	全国(公立)	75.1	65.3	64.6	43.3		
平成24年度	本市	75.8	63.5	64	49.5		52.2
	三重県	74	61.1	61.6	48		50.6
	全国(公立)	75.1	63.3	62.1	49.3		51

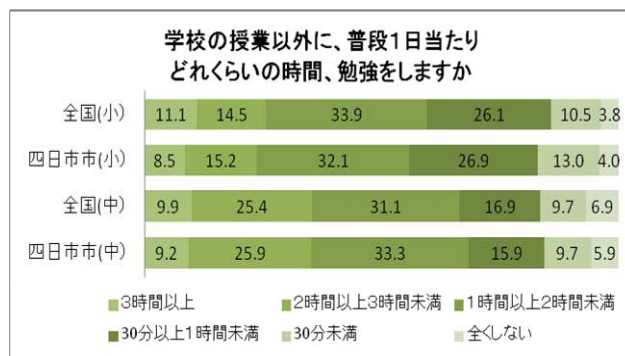
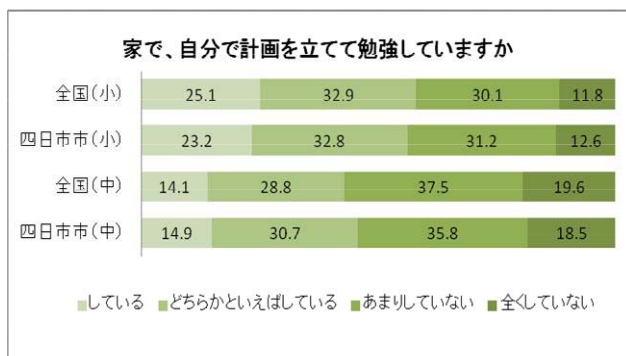
調査結果の分析から、本市の小学生は中学生に比べ、以下の点について課題が大きいことがわかります。

① 読解力に関する課題

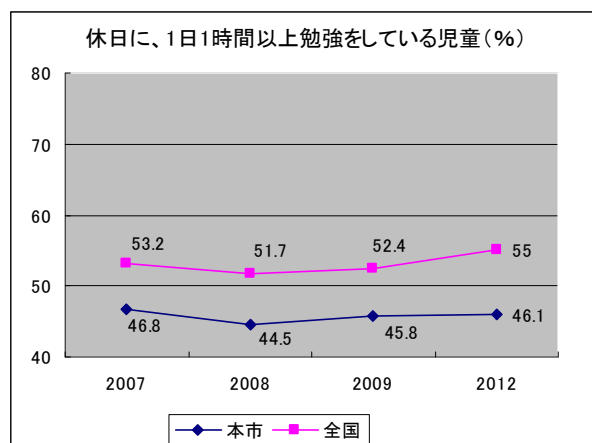
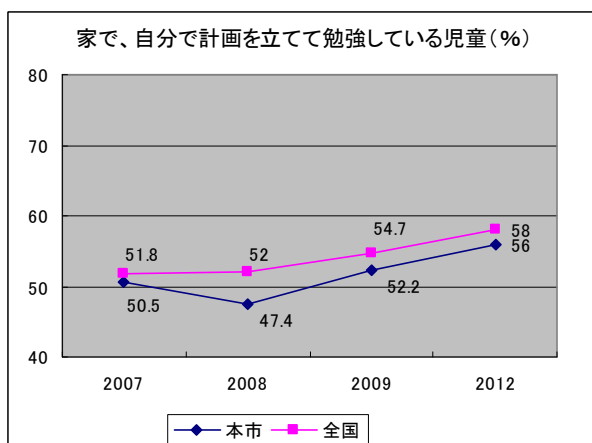
全国学力・学習状況調査問題は設問文の多いことが特徴ですが、無回答率について、中学生は全国平均を下回る傾向を、小学生は全国平均を上回る傾向を示しています。このことから、小学生は中学生より文章の読解を苦手としている実態がうかがえます。

② 家庭学習の定着

家庭学習の定着について、自分で計画を立てて勉強をしている子どもの割合は、小学生においてはやや低く、中学生において高い傾向にあります。また、小学生においては、学校の授業以外に勉強する時間も、全国平均と比べて少ない傾向にあります。

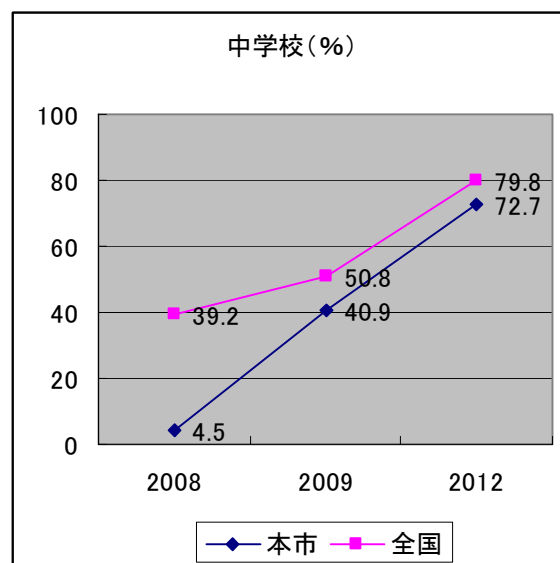
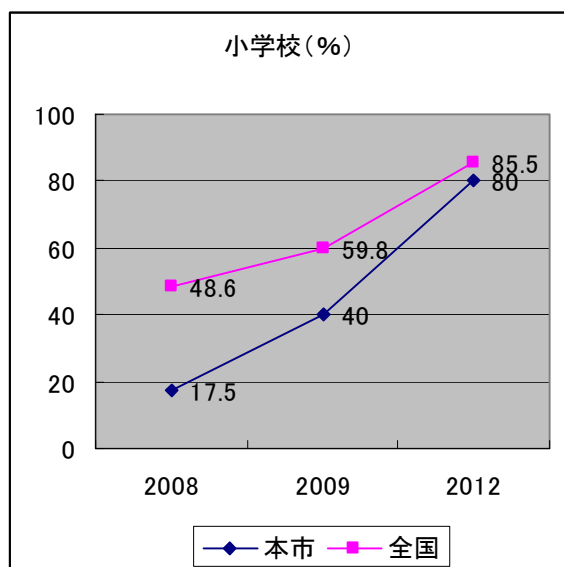


また、下の図は、本市の小学生の家庭学習の実態について、全国平均と経年比較をしたものです。休日に学習をしている児童の割合の変化や、家庭において学習計画を立てて勉強している児童の割合についても、本市は全国平均に比べてやや低い傾向にあり、小学生の家庭学習が十分定着しているとはいえない状況です。(児童質問紙調査「家庭学習の定着関係」より)



○小中学校における全国学力・学習状況調査の活用について

同調査の学校質問紙の結果から、本市の小・中学校とも、全国学力・学習状況調査問題を利用した教育の改善は高まっているものの、全国平均と比べると十分とはいえない状況がうかがえました。（学校質問紙「前年度の全国学力・学習状況調査の問題冊子等や独自の調査等の結果を利用し、具体的な教育指導の改善等を行いましたか」より）



全国学力・学習状況調査からわかる課題については、依然として改善が見られないものもあります。今後は、本調査の趣旨等を踏まえた授業改善に積極的に取り組むとともに、本調査問題を活用した授業を行ったり、学力補充の取組を充実させたりするなど、具体的な取組を進める必要があります。

平成 24 年度には、教育委員会と小・中学校長会とからなる「教育課題検討会議」を開催し、全市的な学力の向上について検討を重ねました。その結果、『学力向上についての4つの取組』を提示し、学力向上についての重点的な取組を全市的に開始したところです。（P.18 参照）

## 2 問題解決能力の向上

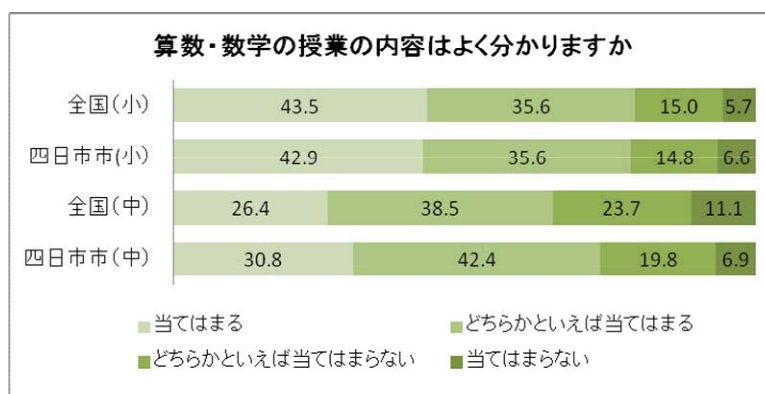
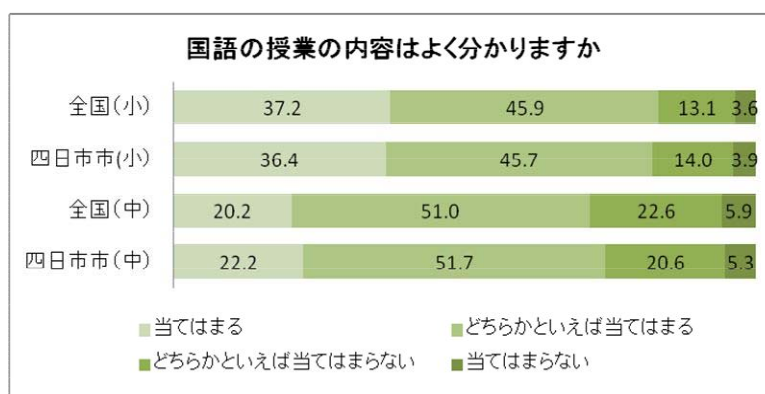
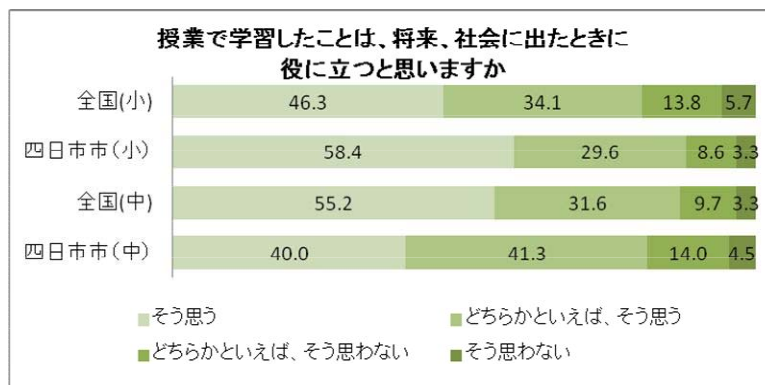
以下のグラフは、四日市市学校教育ビジョンが示す「問題解決能力を身につけた子ども」に関する質問に対して、平成 24 年度全国学力・学習状況調査（対象：小学校 6 年生・中学校 3 年生）における児童生徒質問紙の回答状況を全国平均と比較したものです。

右のグラフから、学校で学んだことが将来の役に立つと思っている割合は、小学校においては全国よりかなり高い割合である一方、中学校においては、やや低い傾向にあります。

また、授業の理解度は、小学校においては全国平均並み、中学校においては全国平均よりやや高い傾向にあります。

本市においては、すべての小・中学校において、国語、算数・数学、英語を中心に少人数指導を実施しています。また、平成 23 年度から始まった「中学 1 年生 30 人学級」の取組により、よりきめ細かな指導を行っています。

平成 25 年度からは、この中学 1 年生 30 人学級の取組を小学校 1 年生にも拡大して（本市独自）実施するため、さらなる効果が期待できます。



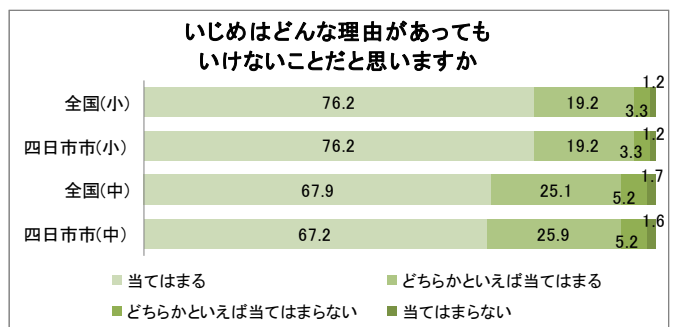
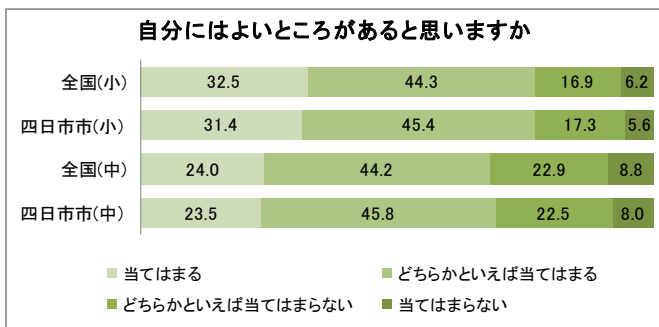
### 3 豊かな人間性

四日市市では、豊かな人権感覚や規範意識を身につけ、将来において社会的に自己実現ができるような子どもの育成を目指しています。

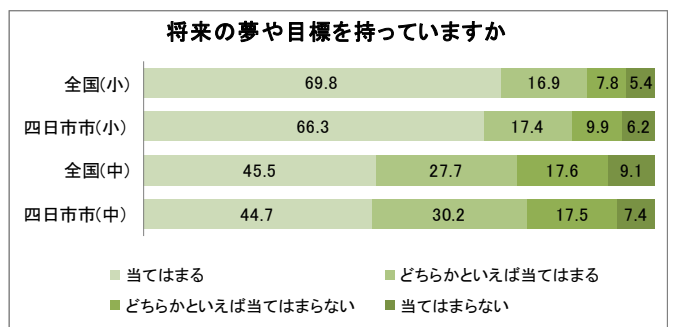
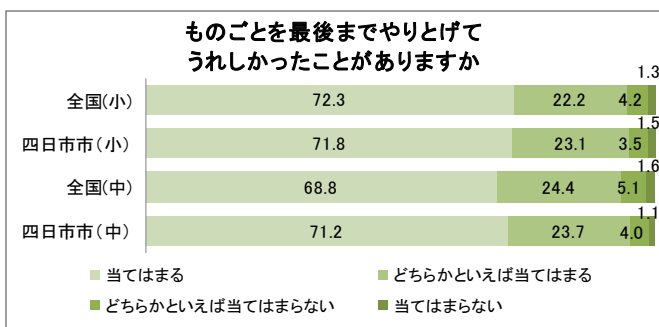
以下のグラフは、四日市市学校教育ビジョンが示す「豊かな人間性を身につけた子ども」に関する質問に対して、平成 24 年度全国学力・学習状況調査（対象：小学校 6 年生・中学校 3 年生）における児童生徒質問紙の回答状況を全国平均と比較したものです。

下のグラフから、四日市市の子どもの自己肯定感については全国よりやや高い傾向にあります。しかし、肯定回答をした子どもの割合は、全国と同様、中学校において下がっていることがわかります。

また、「いじめを許さない」と答えた子どもの割合は、小・中学校とも全国とほぼ同じ傾向にあります。この設問においても「いじめはどんな理由があってもいけない」と回答する割合が、中学校において下がる傾向にあります。いじめを絶対に許さない態度や行動力を育成するための指導の充実が必要です。



「ものごとを最後までやりとげてうれしかったことがある」と答えた子どもの割合一方「将来の夢や目標を持っている」と答えた子どもの割合は小学校において全国より低く、中学校においては全国より高い傾向が見られます。



自然体験、社会体験、文化的な活動等に積極的に参加させるとともに、それらの体験活動を通して達成感を持たせるような指導の充実が求められます。また、小学校の段階から、将来を見据えたキャリア教育等を一層充実させる必要があります。



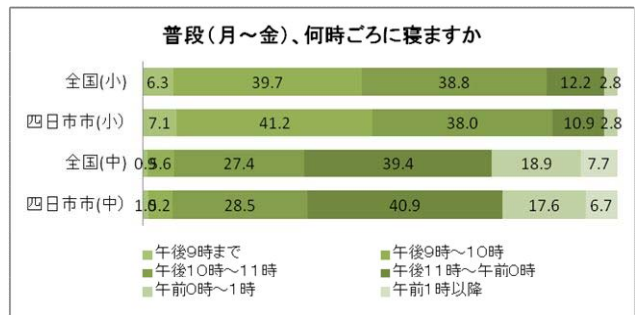
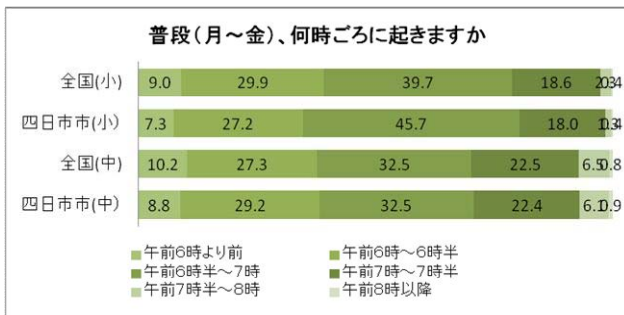
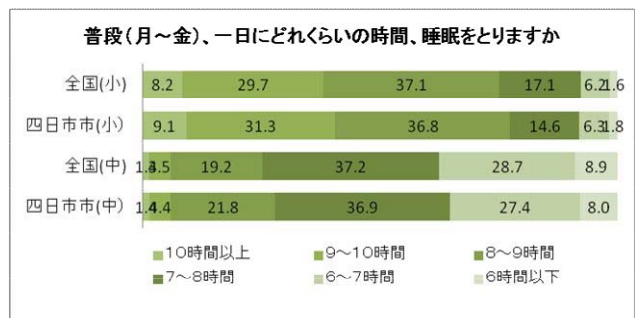
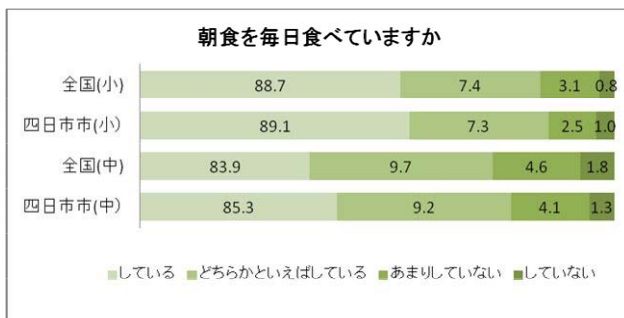
## 4 健康・体力

四日市市では、自他の健康や安全について実践していく力や、たくましく生きるための体力を備えた子どもの育成を目指しています。

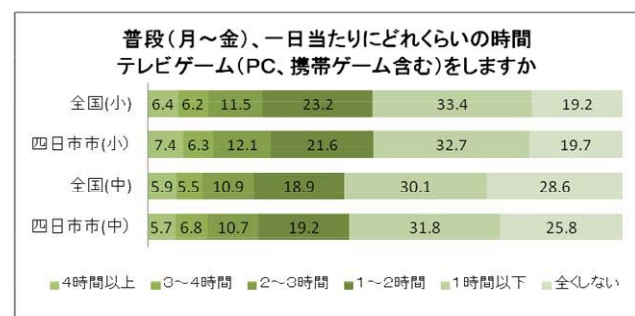
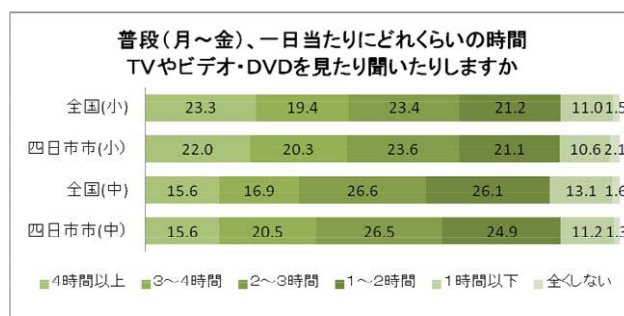
以下のグラフは、四日市市学校教育ビジョンが示す「健康・体力」に関する質問に対して、平成24年度全国学力・学習状況調査（対象：小学校6年生・中学校3年生）の回答状況を全国平均と比較したものです。

「朝食を毎日食べている」子どもの割合は、全国平均と比較して高い傾向にあります。また、子どもたちの起きる時間・寝る時間については、全国と比較して、やや早い傾向にあり、睡眠時間も長くなっています。

これらの結果から「早ね 早おき 朝ごはん」市民運動の啓発が浸透するとともに、生活リズム向上のための実践テキストの活用や出前講座の効果が表れているものと考えられます。



子どもたちがテレビゲームやTV・ビデオ等にかかる時間は、小学校においては全国とほぼ同じ、中学校においてはやや長い傾向にあります。

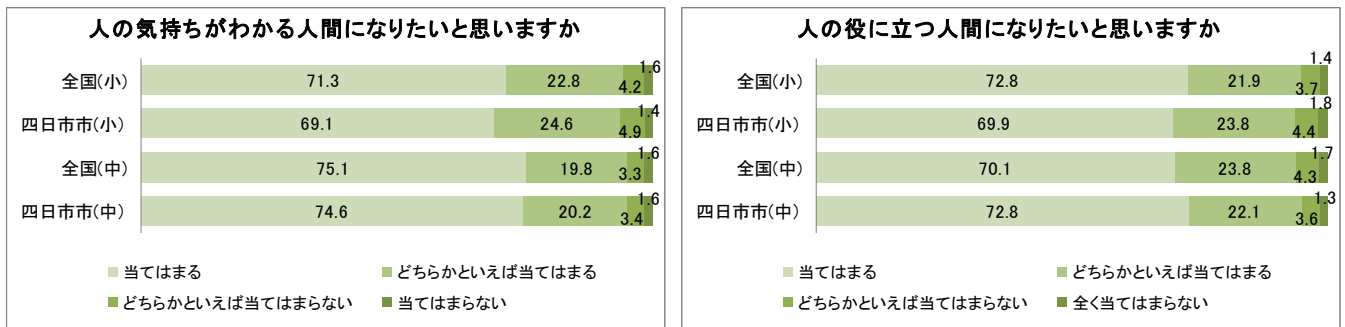


## 5 豊かな人間関係をはぐくむためのコミュニケーション力

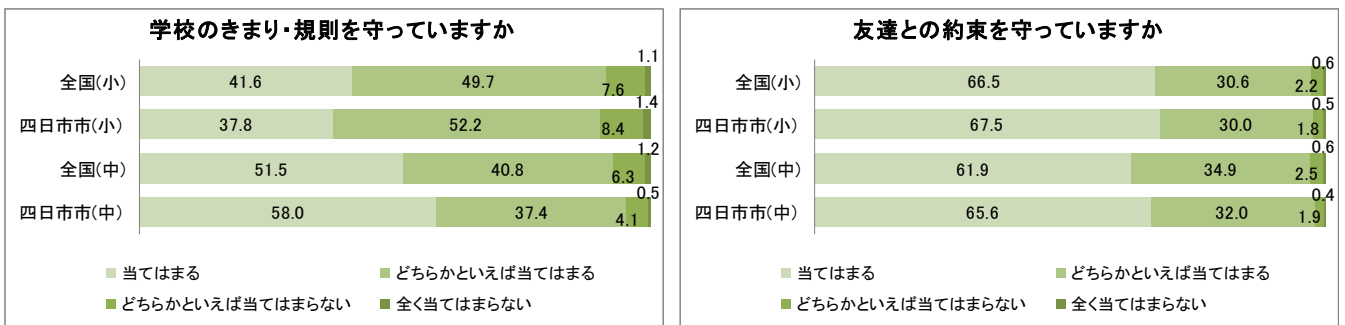
四日市市では、他者の意見を聴き、自分の思いを伝える力を身につけ、互いに尊重し、共に向上する人間関係を築くための資質を備えた子どもの育成を目指しています。

以下のグラフは、四日市市学校教育ビジョンが示す「豊かな人間関係をはぐくむためのコミュニケーション力」に関する質問に対して、平成24年度全国学力・学習状況調査（対象：小学校6年生・中学校3年生）における児童生徒質問紙の回答状況を全国平均と比較したものです。

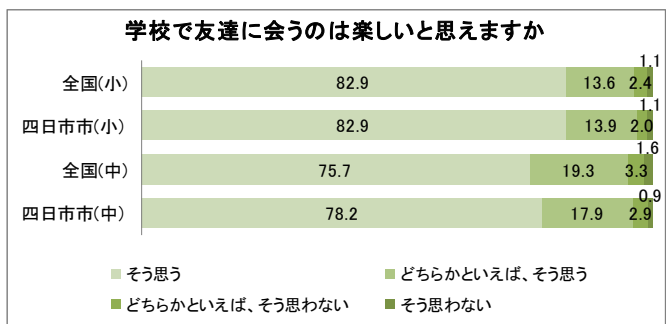
「人の気持ちがわかる人間になりたい」「人の役に立つ人間になりたい」と肯定回答する割合は、全国とほぼ同じ傾向にあります。これらの設問では、そうありたいと強く思う子どもの割合が、中学校において高くなっています。



「学校のきまり・規則を守る」については、本市中学生の規範意識が全国と比較して非常に高いことがわかります。また「友達との約束を守る」に関しては、「守る」と答えた子どもの割合が小・中学生とも全国を上回り、友達との信頼関係を築こうとする姿勢がうかがえます。

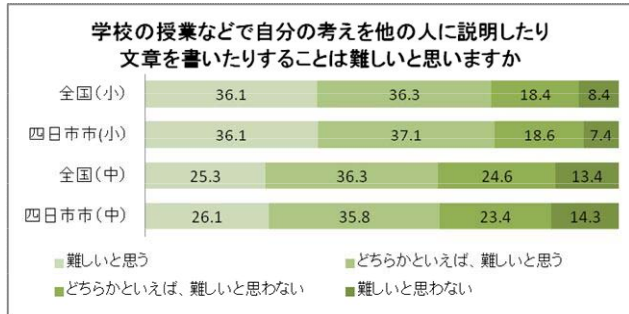
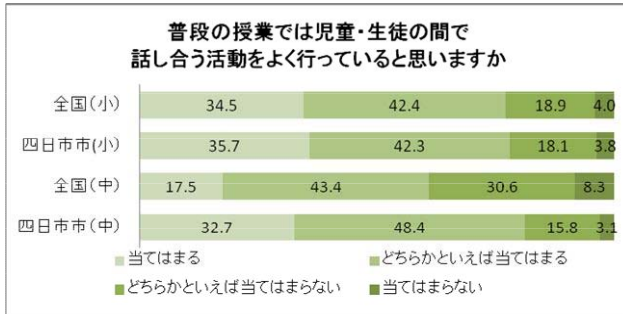


「学校で友達に会うのは楽しい」と答える子どもの割合は、小学校においては全国平均とほぼ同じであり、中学校では1.1ポイント全国平均を上回っている。友達との良好な関係を築けていることがうかがえます。



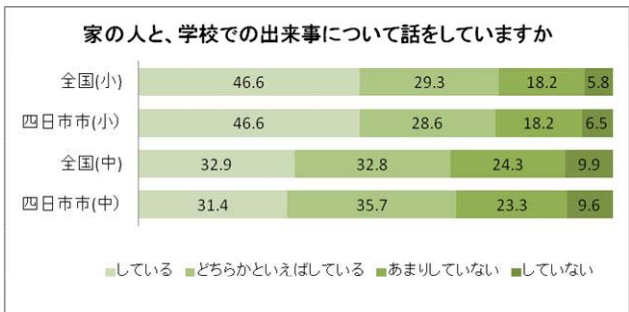
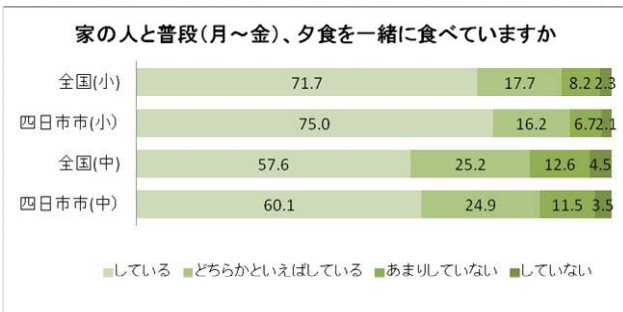
下のグラフから、普段の授業の中で話し合う活動を活発に行っている割合は全国と比較しても高い傾向にあり、特に中学校では 20.2 ポイントも高くなっています。

一方、自分の考えを説明したり書いたりする活動について、難しいと感じる子どもの割合は、全国と比較してやや高い傾向にあります。



これらの結果から、本市の子どもたちは、他者を尊重し良好な関係を築こうとする傾向が見られます。また、学校生活においては、概ねよい人間関係を構築しながら生活しているものと思われます。一方、自分の考えを説明したり書いたりするといった主体的な表現力、言語能力の育成については、今後の大きな課題であると言えます。

家庭生活においては、「家の人と夕食を一緒に食べる」子どもの割合が全国と比べて高い傾向にあります。また、「家の人と学校での出来事について話す」子どもの割合は小学校において全国と同じ、中学校においては全国よりやや高い傾向にあります。家庭生活においても、良好なコミュニケーションが築けている様子がうかがえます。



地域とのつながりにおいては、行事に積極的に参加している割合は、小学校において全国より 6.6 ポイント高くなっています。一方、近所の人に出会ったとき、あいさつをする子どもの割合は全国と比べて低い傾向にあります。学校や家庭といった限られた生活集団だけでなく、広く社会と関わろうとする態度の育成が求められます。

